

公共交通の「利便性」の向上						
目標	番号	実行計画事業	計画に記載している内容	実施主体	具体的な取組・事業	事業内容
						令和 6 年度
目標 1 都市間や地域拠点と中心拠点をつなぐ基幹交通づくり	1－1	鉄道の運行	都市間の移動手段となる鉄道（ＪＲ中央線、ＪＲ太多線）について、基幹交通として位置づけ、その運行を継続します。	東海旅客鉄道株式会社	JR中央線、JR太多線の運行	①ＪＲ中央線・太多線の運行 乗降者数：現在、ＪＲ東海に照会中（６月に回答予定）
	1－2	基幹的バス路線の確保・運行	上位計画である「多治見市立地適正化計画」のまちづくりの方針を踏まえ、ネットワーク型コンパクトシティの構築に向け、地域拠点と中心拠点をつなぐ以下のバス路線について、基幹的バス路線として位置づけます。 これらのバス路線は、通勤・通学等の需要に対する運行サービスの中心的な交通機関であり、「市民の足」としてサービスの提供を確保・維持していきます。	バス事業者／多治見市	路線バスの運行及びサービス水準の確保	①10月ダイヤ改正に伴う回送バスの実車化による増便：平日14便、土休日10便（R6.10） ②高齢者公共交通機関利用促進助成事業（バスチケット65）を10月1日から実施（R6.10） 路線バス乗降調査の比較 R5.11：13.07人→R6.11：13.87人（+0.80人）
評価指標 1		中心拠点と地域拠点をつなぐ公共交通軸	拠点間の公共交通ネットワークの維持・構築に向け、中心拠点と地域の拠点をつなぐ公共交通軸を維持します。			8 軸／8 軸(R10目標)
目標 2 郊外地域と各拠点をつなぐ生活交通づくり	2－1	自主運行バスの運行	市城南西部の諏訪・三の倉・廿原 地区から中心市街地へ移動できる生活交通として、「自主運行バス諏訪線」を運行します。 沿線地域や施設利用の状況、利用実態等を踏まえ、必要に応じて運行の見直し・改善を図ります。	多治見市／バス事業者	諏訪線の運行、必要な地域での検討	①諏訪線の通常運行実施（通年） ②諏訪線臨時便（スクールバス）の運行及び臨時便時刻表の作成のための小中学校との調整（毎月） ③災害等による運休等の対応実施（バス停への告示、市ＨＰでの周知：随時）
	2－2	地域内交通の運行と支援	市域北部の郊外地域から中心市街地へ移動できる生活交通を確保するため、タクシーを活用した「バスタク」を運行します。また、沿線地域や施設利用の状況、利用実態等を踏まえ、必要に応じて運行の見直し・改善を図ります。 郊外地域において高齢者等の通院や買い物等の日常生活における移動手段として、地域（区・町内会等）が主体となり運行する「地域あいのりタクシー」の支援 を 実施します。また、地域あいのりタクシーが 使いやすいものとなるよう、地域・タクシー事業者と協議を行いながら、必要に応じて制度の見直しを行います。	多治見市／地域住民／タクシー事業者	バスタク、地域あいのりタクシーの運行と補助金交付	①地域あいのりタクシーのR5補助金報告（14件1,282千円）及びR6申請支援（R6.4） ②地域あいのりタクシー説明会・意見交換会開催（R7.3） ③運転免許返納者への地域あいのりタクシー割引券の交付（5件）
	2－3	デマンド交通の運行と支援	基幹交通への接続、中心市街地への移動手段として運行するデマンド交通について、市民の日常生活を支える生活交通として位置づけます。 地域の移動ニーズや利用実態等を踏まえ、交通事業者と協議しながらデマンド交通の検討を図り、自家用車に頼らなくても移動できる交通環境づくりを行います。	多治見市／バス・タクシー事業者／地域住民	よぶくるバス等のデマンド交通の必要な地域での検討	①バスチケット65制度導入に伴うデマンドバスの再周知及び新規登録促進（R6.9） ②小泉根本よぶくるバスの池田町・喜多町拡大及び市之倉トライアングルバス大畑町大洞・西仲根拡大方針決定（R7.2）
	2－4	地域内交通の導入支援	市内を運行する公共交通の現状を踏まえつつ、郊外地域と各拠点をつなぐ生活交通を確保するため、自家用車に頼らなくても便利に移動できる地域内交通の導入支援を行います。 地域内交通は、公共交通体系に基づき、基幹交通との役割を明確にするとともに、地域の実情に応じた移動手段として導入を進めます。 また、有償運送については、これを運営する団体等に対して指導・助言を行います。	多治見市／バス・タクシー事業者／地域住民	市による地域な交通の導入支援	－
評価指標 2		地域内交通の導入箇所数	郊外住宅団地等、路線バスでカバーできない地域における移動手段を確保するため、地域や民間事業者と連携してデマンド交通等の導入支援を図り、地域内交通の充実を目指します。			16地区／17地区(R10目標)

公共交通の「利便性」の向上						
目 標	番号	実行計画事業	計画に記載している内容	実施主体	具体的な取組・事業	事業内容
						令和6年度
目標3 中心拠点内を快適に移動できる公共交通づくり	3－1	生活に必要な中心市街地線の運行	鉄道や路線バスといった基幹交通から乗り継いで中心拠点や観光拠点内を快適に移動できる手段として「ききょうバス中心市街地線」を運行します。 沿線地域や施設利用の状況等の変化などに応じて運行ルートを見直し、改善を図ります。	多治見市／バス・タクシー事業者	ききょうバス（前山、坂上、宝町の3ルート）の運行と運行改善	①ききょうバスの通常運行の実施 R6実績(合計)100,059人（R5比：93,524人・6,535人（6.99%）増） 坂上ルート 34,469人（R5比：34,392人・0.22%増） 前山ルート 28,123人（R5比：26,680人・5.41%増） 宝町ルート 37,467人（R5比：32,452人・15.45%増） ②ききょうバスの停留所増設、ルート及びダイヤの変更の方針決定（R7.2）
	3－2	乗継利便性の向上	JR線の時刻表にあわせ、便利に乗継ぎができるよう路線バスやききょうバス中心市街地線の運行時間の設定や運賃の改定を実施します。また、路線バスから自主運行バス諏訪線やききょうバス中心市街地線への乗継ぎについてのサービス（乗継券）を継続します。 JR線、路線バスからききょうバスや地域内交通への乗継ぎを促進するために、イベントや様々な媒体での周知・啓発等の取組みを実施します。	多治見市／バス・タクシー事業者／地域住民	基幹交通と生活交通の乗継利便性の向上	①乗継券情報を掲載したききょうバス時刻表（R6.4.1版）を全戸配布 ②乗換案内アプリ（ナビタイム、ジョルダン）へのダイヤの情報提供（毎年春・秋＋お盆シーズンなど） ③乗継券の発行：2,533枚（R5比：▲54.5%（3,037枚））
評価指標3		ききょうバス中心市街地線の乗車人数	ききょうバス中心市街地線は、多くの市民が中心市街地を快適に移動できることを目指します。			1日乗車数：約274人／約265人(R5実績) （約9人の増加）
公共交通の「利用促進」						
目標4 分かりやすく・使いやすい交通環境づくり	4－1	安全なバス待合空間の確保	基幹的バス路線のバス停のうち、幅員の狭い道路などに設置されたバス停については、安全なバス待合空間を確保するため、道路整備等にあわせてバス停の新設・改善を行います。	多治見市／バス事業者／警察／地域住民	バス停等の改善による安全性・利便性確保	①バロー多治見店駐車場にききょうバス待合所（上屋及びベンチ）設置（R7.1） ②新庁舎建設に伴う工事に伴い、「多治見駅北口」を休止し、代替バス停として「駅北庁舎」を新設する協議を実施（R6.11） ③苦情・要望への対応：バス停位置が横断歩道に近いためバス利用者が横断したい人なのか分からず走行の車が停車してしまうバス停を移動（笠原町神戸地内、R6.9）、待機場所が危険なバス停の移動（本町7丁目、R6.12）
	4－2	公共交通のバリアフリー化	バスについては、高齢者や障がいのある方等、誰もが利用しやすい公共交通を目指し、順次ノンステップバス車両を導入します。 タクシーについては、現在バリアフリー対応車が2台導入されていますが、今後の更なる高齢化を踏まえ、バリアフリー車両（UDタクシー）を順次導入します。	バス・タクシー事業者／多治見市	ノンステップバスやUDタクシーの導入拡大	①UDタクシー（R7.3.31現在）は2台/97台（R5比：増減なし）、後部座席スライドドア車両（12台） ②ききょうバス・諏訪線の車いすでの乗車についての案内をHPに掲載。「たじみの公共交通」の「路線バスの乗り方」ページに掲載。
	4－3	多治見駅における案内の改善	多治見駅において、鉄道とバスの乗り継ぎ、バス同士の乗り継ぎを円滑に行えるよう、総合案内板の設置や観光案内所と連携したバス情報の提供など、公共交通に関する案内の改善を図ります。	多治見市／多治見市観光協会／バス・タクシー事業者	多治見駅における総合案内板設置等、公共交通案内の改善	バス停「多治見駅北口」をR7.10.1に多治見駅北路線バスロータリーに新設し、バスを全てJR連絡通路から駅北庁舎方面に見て右側に集約する方針が決定。
	4－4	分かりやすい公共交通情報の提供	市内の公共交通サービスをまとめた「公共交通マップ・時刻表」や目的に応じて活用できる「目的別時刻表」などを作成し、積極的に公共交通の情報を市民及び利用者に提供します。 また、交通DXの進展を踏まえ、市内の公共交通が便利に利用できるよう交通事業者と連携したデータ整備・システム構築を検討します。	多治見市／バス・タクシー事業者	公共交通マップや時刻表、グーグルマップ等に対応する情報提供	①ききょうバス時刻表の作成及び全戸配布(R6.4) ②「たじみの交通」公共交通パンフレットの作成(R7.3)

公共交通の「利便性」の向上						
目標	番号	実行計画事業	計画に記載している内容	実施主体	具体的な取組・事業	事業内容
						令和 6 年度
目標 4 分かりやすく・使いやすい交通環境づくり	4－5	学生を対象とした利用促進	通勤・通学時間帯の市内道路の渋滞緩和策として、学生に対し公共交通機関の利用を促進するため、バス運賃の学生割引や片道定期券等の施策を検討・実施します。	バス・タクシー事業者／多治見市	学生を対象とした片道定期券等の導入	①市内 4 校の高校 2 年生を対象に通学や休日のお出かけ時の公共交通利用についてのアンケート調査を実施。回答率42. 2%（364/862人：R6. 12） ②「たじみの交通」公共交通パンフレットの表紙の写真を多治見工業高校写真部に依頼（R7. 1）
	4－6	高齢者を対象とした利用促進	高齢者の日常生活での移動手段として、また高齢者の運転免許証返納後の代替手段として路線バス等の地域交通の利用を促進するため、200円バスの代替事業として高齢者の公共交通利用促進事業を実施します。 また、バスの乗り方教室や免許返納運賃割引制度の周知・啓発を行います。	多治見市／バス・タクシー事業者／多治見市悠光クラブ 連合会	高齢者を対象とした乗り方教室等の開催	①【再掲】高齢者公共交通機関利用促進助成事業（バスチケット65）を10月1日から実施（R6. 10） R6チケット受領率 6, 482人／34, 205人（18. 95%） R6チケット使用率 73, 258枚/194, 460枚（37. 67%） ②地域包括支援センター主催の「高齢運転手安全運転相談・免許返納勉強会」でバスチケット65のPRを実施（R7. 1） ③バスまつり及びたじみ子どもフェスタでの出張受取所開設：バスまつり9人・子どもフェスタ0人
	4－7	子どもを対象とした利用促進	幼児、小学生や中学生を対象に公共交通機関を利用する機会を提供し、将来的に公共交通を利用してもらうためのイベント等を開催します。	多治見市／バス・タクシー事業者／企業／幼稚園・保育園・小中学校	園児や小学生を対象とした公共交通イベントの開催	①バスまつり開催：参加者391人（R6. 11） ②たじみ子どもフェスタ出展：都市政策課ブース参加者846人（R7. 3）
評価指標 4		市民 1 人あたりの公共交通利用回数	持続可能な公共交通サービスの提供を行うことで人口減少下においても市民一人あたりの公共交通（鉄道、路線バス、タクシー、ききょうバス、地域内交通）の利用回数の増加を目指します。			年間 約〇回／約66回 (R5実績) （データが出揃うのが6月のため次回報告）

議題 2 多治見市地域公共交通計画（令和 6 年度）の進捗状況

資料2

公共交通の「利便性」の向上						
目標	番号	実行計画事業	計画に記載している内容	実施主体	具体的な取組・事業	事業内容
						令和6年度
官民・他分野との「連携・共創」・「新技術の導入活用」						
目標5 持続可能な公共交通サービスの提供	5－1	自動運転（レベル4）の実現に向けた調査・導入調整	持続可能な公共交通を確保し、市民や利用者に使ってもらえるサービスを提供し続けるため、岐阜県と連携しながら、自動運転について基礎調査、実証実験を行い、自動運転（レベル4）の導入を検討します。また、自動運転における貨客混載についても調査・研究を実施します。	岐阜県／多治見市／バス・タクシー事業者／企業／地域住民	県と連携した自動運転に係る調査・研究の実施	①岐阜県と連携しホワイトタウンエリアでの基礎調査を実施(R6.8)。市民・企業アンケート実施(R6.11～12) ②先進自治体での視察（茨城県境町：R6.7、中津川市：R6.10、恵那市：R6.11、小牧市R7.1)
	5－2	運転手確保に向けた支援	バスやタクシーをはじめとする公共交通の運行を維持するため、県・関係自治体やバス事業者、タクシー事業者と連携した運転手確保支援を実施します。また、ライドシェア（自家用車活用事業）について事業者との情報共有、導入となる場合の準備・対応を実施します。	多治見市／バス・タクシー事業者	交通事業者、県等と連携した運転手の確保支援	①バス運転手専門就職イベント「どらなびEXP02024秋」に東鉄㈱、コミタクモビリティサービス㈱が参加。 ②ライドシェアについて、タクシー事業者と現状報告・情報共有。東濃西部交通圏タクシー準特定地域協議会参加（R6.12）。
	5－3	新技術を活用したMaaS（予約・決済方法等）の導入検討	市民の日常生活における利便性・快適性の向上を図るため、交通事業者や企業等と連携して、デジタル技術を活用したモビリティサービス・システムなど、本市に適したMaaSの研究を進め、導入を推進します。また、スマートフォン等を活用した非接触型の予約・決済システム、全国交通系ICカードやQRコード、クレジットカード決済等のキャッシュレス対応が可能な決済方法等の導入を進めます。	多治見市／バス・タクシー事業者／企業	スマートフォンを活用した非接触型の予約・決済システムの導入検討	①バスチケット65のデジタル化の検討開始（R7.3） ②ききょうバスのデジタル回数券などの新技術サービス導入の検討開始（R7.3）
	5－4	観光・イベントと連携したおでかけ機会の創出	市内の観光施設や地域主催のイベント等と連携しながら、既存の公共交通の利用促進を図り、市民のおでかけ機会の創出、市外からの来訪者増加を目指すため、企画乗車券等の事業を実施します。	多治見市／バス・タクシー事業者／企業 各種団体	既存の交通手段を活用した企画乗車券の導入	パロー文化ホールへの駐車場問題を解決するため、同施設で開催される講演等での公共交通機関を使った方への割引を導入検討開始（R7.3）
評価指標5		新たな公共交通サービス（MaaS等）の導入数	キャッシュレス決済や非接触型の電子予約（・決済システム、等の新たな公共交通サービスの導入し、利便性・快適性のある持続可能な公共交通サービスの提供を目指します。			1件(AIデマンドバス)／5件(R10目標)